

第2回 高校生のための放送技術講座 午前：全国大会の報告会

(生徒の報告スピーチ原稿より抜粋)

1. 当日の発表者

【脇耀鋭／2年／府立槻の木／全総文AP】

- ・総文祭に参加する際の注意点としては「期限を確認する」ということ。
- ・総文祭全体として、Nコンのように作品を競うのがメインではなく、楽しむことに重きが置かれていた。

【中田美那代／3年／東海大学付属大阪仰星／Nコン研究発表】

- ・工夫したことは、写真を多く使うと権利処理が大変なので、オリジナルイラストで対応したこと。
- ・会場では発表者とPC系の距離が約3メートル離れていたため、練習の時からきちんとタイミングを揃えておくといい。

【石本晴祈／3年／府立堺西／Nコン研究発表】

- ・全国では、PowerPoint以外にも動画や音声などの外部データや、自分たちで作ったものの実物を持ってきているところがよかったです。
- ・主観的なテーマだったので、見ている人たちに納得してもらえるようなデータを出すことが大変でした。

【殿川美貴子／1年／大阪市立高校／Nコン朗読】

- ・東京では、全国から集まった人たちと、お互いの朗読を聞き合い、アドバイスをし合うことができた。
- ・「あと2年のうちに全国大会の決勝に進出してNHKホールの舞台に立ちたい」という目標ができた。

【大庭穂香／3年／大阪市立南／Nコン朗読／全総文朗読】

- ・Nコンから約二週間で全総文というスケジュールは正直ドタバタだった。
- ・他校との交流や大会への参加は勇気がいるが、その一歩が、陰しく楽しい宝探しの第一歩。

【上田龍二／3年／桃山学院／Nコン朗読／全総文朗読】

- ・全国で、チーム大阪ではげましあい、喜びを共有できた。
- ・意見確認は本当に大事。一人で練習するのもいいけど人とコミュニケーションをとることが自分を成長させると思っています。

【中井美希／2年／大阪夕陽丘学園／Nコンラジドキュ】

- ・恥ずかしくてなかなか取材に行けず、大阪大会までは30人にしか取材していなかった。最終的には113人にインタビューできた。
- ・他県の作品を聞いたときに、取材力と録音技術が比べ物にならないくらいすごかった。

【田中亘／3年／府立金剛／Nコンラジドラ】

- ・決勝の後の番組制作セミナーに参加。聞いている人をどれだけドラマの世界に入らせるかがとても大切「自分が思っている以上に細かい設定が必要」とのことだった。
- ・2年生の時に先輩が卒業して部員は自分1人だった。部員が1人2人しかいない学校も、諦めずにNコンに向けた作品を作ってもらいたい。

【足立明星／2年／府立成美／N コンラジドキュ】

- ・音だけで伝えられるテーマを考えるのが大変で、作品ができるまでに時間がかかった。
- ・全国大会の審査員講評で、インタビューの周りの音が静かで自然に聞こえるなどのアドバイスをもたらえた。

【富田一花／3年／箕面自由学園／N コンテレドラ】

- ・「音声がクリアでない」と言われるのが悩みだったが、関テレの「映像制作～学びアイ」に参加し、そこで勧められたガンマイクを使用したところ、大成功だった。
- ・全国でレベルが違うなど思ったのは BGM と演技。テレビドラマではもっと表情に重点を置いて頑張りたい。

【山下七海／3年／府立堺西／N コンテレドキュ】

- ・今回最もがんばった事は外部への取材を積極的に行ったこと。また、最も悩んだ事は番組構成で、何度も素材を見直した。
- ・私は3年生なので、全国大会での経験を生かして、後輩たちの技術や作品構成のサポートをしていきたい。

【大塚勇輝／2年／府立箕面／N コンテレドキュ】

- ・編集の細かいところを他の部員に助けてもらう場合、注意が必要なのは、感覚の違いがあり、最終確認を必ず行わないといけないこと。
- ・全国大会で学分析の大切さを学んだ。他の作品の良いところを取り入れておけば...

【山本萌黄／2年／箕面自由学園／全総文 VM】

- ・全国の作品は、風景などの映像がとても綺麗だった。PR が込められた作品も多かった。また、Nコンと比べて、全体的に自由度が高い印象。
- ・次は、先輩の作品ではなく自分の力で来たい。

【神館光／1年／相愛／N コンアナウンス】

- ・私は「綺麗に読めているが何を伝えたいのかわからない」と言われ続けていた。全国大会に出場して改めて感じた事は『伝える気持ち』の大切さ。「この人の熱い想いを伝えたい！」という思いがなければ、相手には伝わらない。

【岡田羽叶／1年／プール学院／N コンアナウンス】

- ・私の課題は「人に伝えることができていないこと」。普段練習している放送室から出て、友達や先生などたくさんの人に聞いてもらい、アドバイスをもらった。
- ・全国大会は、大阪大会と全くレベルが違う世界。予想以上だった。

【高見瑠莉夏／3年／四天王寺／N コンアナウンス】

- ・アナウンス部門は、一生懸命作った世界に1つだけの原稿をアナウンスできる、とてもやりがいのある部門。
- ・(高1や高2の頃から)自分が納得できるまで原稿に向き合ってほしい。

【藤井羽里／2年／帝塚山学院／N コンアナウンス】

- ・アナウンス原稿の出来は取材量に比例すると実感した。1回でも多く取材することが面白い原稿への近道。
- ・他の人に読みを聞いてもらい、内容が伝わるか、伝わりにくい言葉がないか、意見交換することが大切。

2. 原稿のみ寄稿

【一ノ瀬萌／3年／府立天王寺／N コンアナウンス】

- ・原稿のネタを選ぶとき、自分が心からすごいと思えるかどうかを大事にしている。今回の模擬国連の話題も、二人の熱意に感動して震え、何とかしてもみんなに伝えたいと思った。
- ・去年と同じことを言わせてほしい。「来年は大阪のアナウンスの中から準決勝に進む人が出て欲しい」

【一ノ瀬萌／3年／府立天王寺／N コンラジドラ】

- ・1月のミニコンテストで「オチが読める」と言われ、悔しくて、帰りの電車で書いたのがこの作品。2月に録音を終えていたので、時間を置いて冷静に見つめ直すことができた。
- ・聞き手に想像膨らませて欲しかったので、あえてシンプルな編集にした。

【新地咲良／3年／四天王寺／N コンラジドキュ】

- ・私の学校も含め録音の設備が整ってないところも多いので、大阪代表になってナレーションの取り直しをする時には学校間で協力してほしい。
- ・開会行事へは必ず参加すること。棄権が出て発表時間が繰り上がり、それを知らずに遅れてしまうと失格になる。

【紀知里／2年／府立成美／N コンテレドラ】

- ・物語を映像で伝えることを考え、写真部を主体としたドラマを作った。撮影では天候や髪型での撮り直しが多くかった。
- ・全国大会では他の学校の作品をたくさん見ることができ、これからの作品作りに生かしていきたい。

【鈴木涼平／2年／四天王寺学園／全総文朗読】

- ・Nコンはアナウンス部門で出場しましたが予選落ちして落ち込み、こんな精神状態で全総文は大丈夫なのだろうかと不安だったが、いざ練習を始めてみると、朗読が楽しく、自分が好きなことを伝えることの大切さが身にしみて分かった。

【野村充希／3年／大阪夕陽丘学園／N コンテレドキュ】

- ・編集をされていて辛かったのは、度々パソコンがフリーズした、声と映像が合わなかった、テロップをつける場所に苦労したことなど。編集期間が短く、常にストレスを感じた。
- ・ほとんどの取材を一人で行い、脚立を使わずに撮っていた。これからはカメラワークを研究して番組を作りたい。

【木下慧斗／3年／浪速／全総文アナウンス】

- ・あがり症の私は、原稿の一言目でいきなり嘔んでしまった。頭が中は真っ白になったが、開き直って何もなかったかのように読むことができた。誰でも大舞台では緊張し、失敗もついてくるが、良い意味で開き直すことにより道は開ける。今回、このことを実感し、大きな自信を得ることができた。